

基本設計（案）に対する市民ワークショップでの意見と回答

No.	質問と回答（上段が質問、下段が回答）
（１）基本方針・設計コンセプトについて（P1）	
1	<p>Q. 焦点化が必要。観光（産業）・交流の場とするなど。</p> <p>A. 一部の施設に焦点を絞ったコンセプトにしない理由については、複合施設であり、利用者の目的によって、メインとなる施設が異なるためです。また、多世代かつ市内外からの多くの方に来館してもらうという、人を集め賑わいを創出することを目的としていることから、できるだけ利用目的を限定しないコンセプトを採用しています。</p>
2	<p>Q. 佐原地区は香取市の中心でありシンボリック施設として建設されるべきです。「設計コンセプト」に「歴史と文化が薫る・・・」とありますが、「3つの設計コンセプト・・・」から歴史と文化が薫って来ません。「3つの設計コンセプト・・・」を「日本の建築様式も取り入れ、明快な架構・・・」としていただき、このコンセプトに可能な限り準拠して設計してほしい。</p> <p>最初に紹介してくれた5階建て全館吹き抜けの内部空間のコンセプトは大賛成です。</p> <p>A. 全館吹き抜けのコンセプトは、賑わいある施設づくりに配慮したものでしたが、ワークショップや検討委員会での意見により、吹き抜けの設置箇所は、開放性や視認性に配慮した「(仮称)佐原通り」と子育て世代支援施設の一部に限定しました。</p> <p>これにより、研修室や音楽関係諸室の集約化し、機能性や連携に配慮した計画とし、「小江戸佐原」を表す「佐原らしさ」については、1階「(仮称)佐原通り」や、勾配屋根・格子・近代建築の色彩などを取り入れた立面計画より表現しました。</p>
3	<p>Q. 施設において子育て支援機能を標榜するなら、この際に香取市に欠けている療育支援の機能を持つものも必要ではないかと考えます。今後療育センターを立地的によい場所に新規に建設するのは時間と費用（予算ねん出）の問題があるので、せつかくの「複合施設」で国庫補助等財源が確保された状態で、より深い支援を行えば、香取市の将来のためになったと思うので大変残念です。子育て支援は全国の先進事例を見ればわかるように通り一遍のものでは人口増加に繋がらないと思います。非常識なほどの踏み込みが必要ではないでしょうか？</p> <p>A. 市の子育て、障害者福祉担当などとも協議し、療育センターの設置について協議しました。その結果、大規模施設では子育て支援センターと併設された療育センターの事例もありましたが、今回の施設規模から基本的には併設は困難であり、別途整備することが適当と判断しました。</p>
4	<p>Q. 子供からお年寄りまで多世代が交流できる複合施設だけに安心・安全であることに重点をおいて欲しい。線路が隣接、車の出入りの多い駅前の</p>

	ため。
	A. 周辺からの動線を十分考慮したうえで、駐車表内の歩車分離等の工夫を行い、安全に配慮した計画とします。
(2) 建築計画概要について (P2)	
5	Q. 旧建物の基礎部分 1.5m 範囲まで解体とありますが、浄化槽部分は解体されているのですか？ (基本設計の施設東側出入口手前有)
	A. 1.5m 範囲までは解体されていますが、1.5m 以深は残存しています。
6	Q. 杭の深さ N 値 40 程度とのことですが、S 造とはいえ、N 値 50 程度は必要では？
	A. N 値 40 程度の層を支持層とした場合の杭支持力を計算で求め、確認しているので N 値 50 は必要ありません。
7	Q. 建物計画範囲外の既存杭及びその他地下構造物について、液状化に対処するために活用できないものか、検討する必要があるのではないか。
	A. 既存杭及び地下構造物の存在が液状化現象を抑制する効果があるかは、公的な研究成果がなく定かではありません。本計画においてその効果を検討することは難しいと考えます。
8	Q. 「歴史と文化が薫る・・・」という設計コンセプト踏まえ、「3. 計画建物の概要」又は「4. 構造計画概要」に日本の建築様式を思わせる内容を具体的にに入れていただきたい。
	A. 複合公共施設としての機能性と経済性に配慮し、構造形式は木造ではなく、鉄骨造を採用しました。日本建築風架構形式を思わせる内容については、外観にて「佐原らしさ」を積極的に取入れた立面計画で表現しました。
9	Q. 4 階建ての施設。多くの市民に開かれた大切な拠点となる場所です。地盤の調査を十分に安全な建物として欲しい。
	A. 今後、実施設計等の段階で、より詳細な地盤の調査を行い、さらなる安全の確保を図ります。
(3) 配置計画について (P3)	
10	Q. 駐車場 (155 台としている) は、最大限に多くしたい。
	A. 今後、実施設計や計画用地が確定した段階で、駐車場については再度台数の考え方を取りまとめ立体駐車場等の整備も含めて検討する予定。

11	<p>Q. 賑わい空間「(仮称)佐原通り」を「(仮称)歴史誘い通り」に変えてはどうか。</p> <p>A. (仮称)佐原通りについては、施設の基本設計を検討するうえで重要な位置づけであったことから、便宜上「(仮称)佐原通り」としてこれまで扱ってきました。今後、この扱いを公式な名称とするか、また、愛称の募集などを行うかについては、施設が竣工近くなったときに、施設全体の愛称を募集する可能性が高いことから、施設の愛称募集の際に、同時に検討したいと考えます。</p>
12	<p>Q. 「(1) 商店街・観光地へと・・・配置計画」の中で、「(仮称)佐原通り」がありますが、この通りこそ、佐原の誇るべき歴史文化へと誘う道ではないでしょうか。歴史文化を思わせる呼称にするべきと考え、「小江戸への道」あるいは「小江戸佐原通り」を提案します。京都の「哲学の道」と同様に観光客の脳裏に残ると思います。</p> <p>また、佐原駅周辺地区複合公共施設にある大小の神社仏閣等を「人力車」でゆったりとめぐる観光によって神社仏閣周辺の住民の「もてなし」が進化し佐原の評価があがること、商売にも寄与すると思います。</p> <p>A. 通りの名称についてはNo.11に同じ。「人力車」については、観光や商売に寄与することは見込めるものの、周辺道路環境や複合施設が生み出す新たな人の流れの検証とともに、実施する事業者と地元の理解・協力が必要となることから、基本設計の中での検討は難しいと考えます。</p>
13	<p>Q. 東玄関車寄せ付近は、隣地境界との幅が狭まっているように見えるので通行区分など安全に配慮していただけたらと思います。</p> <p>A. 敷地境界際の駐車場については、車止め等の安全対策を施します。駐車場内に歩行者専用道路:「緑の小道」を設け、通行区分の安全性に配慮した計画としました。</p>
14	<p>Q. 車社会です。駐車場確保の件、立体駐車場の導入、安全性を取り入れ検討してください。</p> <p>A. 今後、駐車台数を確保しつつ、安全に配慮した駐車場となるよう検討します。</p>
<p>(4) 外構計画について (P4)</p>	
15	<p>Q. 緑の小道・角の庭について、駐車場との兼ね合いで再検討を。駐車台数を多くしたいため。</p> <p>A. 今後、実施設計や計画用地が確定した段階で、緑の小道・角の庭の大きさ等については、再度台数を含めた考え方を取りまとめ、立体駐車場等の整備も含めて検討する予定。</p>
16	<p>Q. 「(3) 植栽計画の考え方」には、桜が入っていませんが、「桜」は春の象徴です。日本文化のシンボリックな植栽として数本取り入れることは必要だと考えます。虫がつくから嫌いとの意見がありました・・・。</p>

	A. 植栽計画については、公共施設に附帯する駐車場及び広場として限られた敷地を効率的に活用する必要があることから、高木や落葉樹の植樹は適当ではないと考えます。今後の実施設計等の段階で、施設外周部や表の庭（多目的広場）等で植樹が可能であるか検討します。
17	Q. 進入導線や駐車場において、イベント開催時の通常利用者、特に子育て施設利用者や社協利用の便宜はどのようになるのでしょうか。 A 駐車場をすべて使用するような大規模イベントの際には、基本的には各施設管理者が適宜利用者用駐車場を確保することを想定しています。
18	Q. 楽しい雰囲気を作り込んでおり、集まりやすい感じを持たせてあるので良いと思う。回遊動線を固定すると人の通りが片寄るため複数設置して欲しい。 A. 関係者などと一緒に周辺施設や経路を検証し、周辺地域に視野を広げて考えていく必要があると考えます。
(5) 平面計画について (P5)	
19	Q. 3階学習室は学生の勉強等に利用とありますが、一般の方々の研修等の使用はできるのですか？ A. 利用者は学生に限定していません。一般の方でも、学習などに利用可能です。また、基本的には、学習室としますが、全館を利用する必要がある場合などは、移動間仕切りを設置しており、研修室としても利用ができるような想定もしています。
20	Q. エントランス、吹き抜けを無くして、非常時のスペースとして確保しておく。通常は多目的なスペースとして利用する。 A. 全館吹き抜けのコンセプトは、賑わいある施設づくりに配慮したものでしたが、ワークショップや検討委員会での意見により、吹き抜けの設置箇所は、開放性や視認性に配慮した「(仮称)佐原通り」と子育て世代支援施設の一部に限定しました。吹き抜けを中止することにより、研修室や音楽関係諸室の集約化し、機能性や連携に配慮した計画としました。
21	Q. 4階のテラスの再検討。多すぎではないか？ A. ワークショップより、パーティー等が行えるテラスが欲しいという意見を踏まえ、諸室に用途に合わせた外部テラスを設置し、外部空間の有効活用ができる計画としています。
22	Q. 観光情報発信施設へのデジタルサイネージ設置がわかりづらい。 A. 設置場所は、「(仮称)佐原通り」や「(仮称)小野川ギャラリー」を想定しています。表示内容は、佐原の町並みへの観光情報や施設案内を行う予定です。デジタルサイネージの事例については別紙参照。

23	<p>Q. 駅前施設の研修スペースを減らし、市内の他の公共施設を研修スペースとして利用することを提案します。理由としては、第一回、第二回のWSにおいて、習い事や練習会などのスペースを多く欲しいという意見がありました。市役所の大会議室や、香取合同庁舎の大会議室などのスペースを、使用していない時間帯に限り研修室として貸し出す、という方法もあるのではないのでしょうか。市内全体の公共的施設の有効利用につながると考えます。</p>
	<p>A. 周辺施設の活用は、今回の基本設計においても検証を実施しており、ご提案のとおり複合施設外の施設により不足を補う必要があります。このため、今後、他施設との連携についても具体的な検討を行うこととします。</p>
24	<p>Q. テナントスペースの設置を再提案します。数十件にテナントの出店を問い合わせたが、希望がなかったため、テナントスペースはとりやめたとの話があったが、市内の中小企業者や創業希望者などに出店を呼びかけるのはいかがでしょうか。小売店のみでなく、ショールームや、事務所利用も考えられるかと思えます。インキュベーション施設のように、一定の期間は安い家賃で貸し出し、事業が軌道にのったら家賃を上げたり、自分で物件を探してもらい、という方法もあるのではないのでしょうか。観光客の集客や、駅前の活気を呼ぶうえ、市内に新たな創業を促す効果もあると考えます。</p>
	<p>A. 現在、香取市では「空き店舗」対策として、改修や創業の支援に取り組んでいますが、コストや撤退リスク等を考慮すると、駅周辺に空き店舗が多数ある現状では、複合施設と既存商店街が連携し、既存空き店舗の活用を図ることが望ましいと考えます。</p>
25	<p>Q. 1階のどこかにキャッシュディスペンサーを配置してほしい。できれば都市銀行も入れてほしい。都市銀行系は佐原には1台もなく現在鹿嶋まで出かけています。</p>
	<p>A. 施設外周部や（仮称）佐原通りなどにATMを設置することは可能と思われれます。ただし、ATMの設置については、利用者の数やセキュリティの問題があることから、金融機関の判断になると思われれます。</p>
26	<p>Q. 「交番」機能をもったスペースを設けて欲しい。地域の安全安心のステータスです。1階で開設することが必要だと思えます。</p>
	<p>A. 交番については、夜遅くまで不特定多数の利用者がいる複合施設内に設置することは有用と考えます。ただし、交番の設置は千葉県警の所管で、直線距離にして100mほどにところに駅前交番があることから、現実的に設置は難しいと考えます。</p>
27	<p>Q. 「研修室」あるいは「音楽室」の壁に全室でなくてよから「鏡」をつけて欲しい。踊りの研修、あるいは音楽に合わせて振りを確認するために必要です。使用しないときはカーテンあるいは引き戸式にして隠しておく。踊りの練習では必ず求められると思えます。最近の公共施設では「鏡部屋」は普通です。</p>

	A. 研修室・和室の一部、メディアスペース及び音楽練習室等への壁面鏡の設置は必要と考えますので、実施設計等の段階で設計に反映することとします。
28	Q. イベントスペースとメディアスペースの仕切りは可動にするのは困難ですか？さらに大規模なイベントに対応できるようにすればよいと思います。
	A. 遮音性や移動間仕切りの収納スペースの確保のため基本計画では見送ることとしました。ただし、防音対応の移動間仕切りとすれば可能です。今後の実施設計より、費用対効果を踏まえ、検討します。
29	Q. 図書館児童書の吹き抜けは良い構想だと思います。ただ、下の階の子供の声が聞こえてくることは利用者に承知しておいてもらいたいです。
	A. 図書館の吹抜け部分はガラス間仕切りとし、音に対して配慮した計画となっています。
30	Q. 子育て支援施設において相談室や静養室は複数欲しいと考えます。発達障害を持つ子供へのカームダウンスペースが必要です。
	A. 今後のヒアリングを行い、詳細検討を行います。スペースとしては屋内多目的広場を縮小させ設けることは可能です。
31	Q. 展望テラス、ひな壇テラス周囲の安全策はどのような構造ですか？
	A. テラス周囲は1.5m以上の手摺等を設置し、安全対策を行います。
32	Q. 相談支援の専門家から社協相談者の来訪時のプライバシーのための動線確保の要望がありました。
	A. 相談室入口はメインの通路に面しない計画とし、プライバシーに配慮しました。
33	Q. 2階の吹き抜けを中止して、学習室等にしてはどうか。
	A. これまでの検討の中で、下階の子育て世代支援センターの連携の意見もあったことから、基本設計では吹き抜けは中止しないこととします。
(6) 立面計画について (P6)	
34	Q. 吹き抜けを無くし、EV、閲覧室(読書室)、郷土資料室の充実を図りたい。
	A. 基本設計検討の中で、吹き抜けの縮小のほか、現在の図書館以上の充実が図られています。
35	Q. 郷土資料については、文献資料のみではなく、古文書類の収集、保管、閲覧等を将来の郷土資料館を考慮して進めたい。

	A. 図書館としては、古文書の収集は検討していない。また、保管、閲覧及び将来の郷土資料館の整備については、将来的には、保管場所、保管のための設備、閲覧のための職員確保などを考えると、電子データ化したものをオンライン等で閲覧するデジタルアーカイブの導入を検討する方向にある（船橋市・大網白里市などの導入例有）。
36	Q. 「立面計画のテーマ」には「格子」がありますが、香取市のシンボル「小江戸佐原」を表現する「日本の建築洋式」に準拠するには、木柱、木壁、漆喰、瓦屋根、ナマコ壁等々の日本の建築様式も記述してほしい。
	A. ワークショップ・検討委員会より、「佐原らしさ」について意見を取りまとめ、基本設計での立面計画を提案しています。ナマコ壁等、デザイン要素が多くなるとまとまりがなくなり、雑然とするので、基本設計案では様々な検討の結果、今回の提案となりました。
(7) 環境配慮・防災計画について (P7)	
37	Q. トイレの便器は洋式でウォシュレットと便座ヒーター付としてほしい。
	A. 全ての大便器にて対応しています。(幼児用便器は便座ヒーターのみ)
38	Q. 和式便器は無しでよいのでは。
	A. 他の公共施設なども参考にし、1階トイレに一台設置予定です。
39	Q 防災計画について、今後も液状化の防災について十分配慮しておかなければならない。吹き抜けの再検討、テラスの有効利用を考えておくことが必要。テラスが多すぎの感がある。
	A. <ul style="list-style-type: none"> ・液状化については、今後詳細な地盤調査を行い適切な対策を行います。 ・全館吹き抜けのコンセプトは、賑わいある施設づくりに配慮したものでしたが、ワークショップや検討委員会での意見により、吹き抜けの設置箇所は、開放性や視認性に配慮した「(仮称) 佐原通り」と子育て世代支援施設の一部に限定しました。 ・ワークショップより、パーティー等が行えるテラスが欲しいという意見を踏まえ、諸室に用途に合わせた外部テラスを設置し、外部空間の有効活用ができる計画としています。
40	Q. 緊急用ヘリは、当ビルに着陸できますか（人命にかかわる状況では、車が走れない状況が想定されます。緊急用ヘリでの救援が必要になることを想定しています）。

	A. ヘリポートの設置については、周辺に障害物がないことや防災上の必要性の有無など、厳しい制約があります。また、近隣においては、利根川河川敷（ドクターヘリ）、水の郷さわらにヘリの着陸可能な場所があることから、本施設については設置の予定はありません。
41	Q. 小規模自主避難所として運用するとのことですが、新しく安全な建物であるうえバリアフリーで子供にも配慮されているのもったいないです。小さい子供のいる家族や要援護者が安心できる環境があると思います。自主避難所の拡張と乳幼児と母親向けの緊急物資の備蓄があると良いと思います。小さな子供を連れた家族が一般の大規模避難所で肩身の狭い思いをすることが想定されるので、ぜひ検討してください。
	A. 台風や大雨などによる土砂災害や浸水（本施設地区以外）の際の自主避難場所を想定しており、これまでの利用実績等を踏まえ、40人程度と収容人数を設定しています。大規模避難所（市民体育館）を開設する規模の災害の場合は、要援護者の把握、市職員やボランティアの配置、炊き出し等の条件があるため、優先的な利用や避難所の分散については、今後の災害対応計画の中で検討する必要があると思われます。災害備蓄物資については、ご指摘のとおり備蓄倉庫があることから検討することとします。
（８）設備計画について（P8）	
42	Q. 通信・情報設備計画、将来、通信・情報の面は機能的になることを想定しての設備計画を企てておく必要があると考える。
	A. 将来的な増設・更新を考慮し、予備スペースや単純なシステムの採用による計画としています。
（９）工事費概算・全体事業スケジュール・工事工程表（案）について（P9）	
43	Q. 公共下水道接続型貯留式マンホールトイレを設置とは、どのようなものをどう利用？
	A. 下水道本管に直結する排水管に等間隔にマンホールを設置し、災害時に上部にテントや簡易トイレを設置することで災害時でもすぐにトイレを利用できるようにしたものです。利用方法としては排水管に水を貯留し、1日1回貯留弁を開放することで排泄物を貯留水とともに自然流下にて公共下水道まで排水して利用します。
44	Q. 総計44億8千万円を評価する力量はありませんが、考え方としては、この計画は佐原にとって長年の願いであったと思います。費用が掛かっても見据え投資するべきだと考えます。借金する価値は十分あるプロジェクトと評価します。
	A. 国の補助金や合併特例債など、有利な財源を活用し、将来的な負担の軽減も考慮のうえ、事業の推進を図ります。また、今後、事業費については、事業手法と併せて検証を行い、一層の事業費削減についても検討も行います。

(10) その他

45	Q. 各階の展示スペース等において、小見川いぶき館等の壁に取り付けてあるピクチャーレール等（掲示ボード？・・・コンクリート壁面に床面から100cm、130cm、160cm程度の高さに埋め込んである高さ7, 8cm、幅10~20m程度のスチール製の有孔レール）を取り付けてほしい。
	A. 今後、実施設計の段階で検討します。
46	Q. 将来を見据えての施工をお願いしたい。
	A. 将来の経済状況を踏まえ、実施設計の段階で検討します。
47	Q. 使用する市民の立場に立った使いやすい機能的な施設あってほしい。
	A. 公共施設として、誰もが使いやすい施設づくりを行うとともに、基本設計では市民検討委員会・市民ワークショップを行い、市民の意見を取り入れた計画を心がけています。